

● 今年度から広報委員となりました出口です。まだ右も左も判らないままに今月号の編集後記を担当することになりました。よろしく願い致します。

皆様は会報誌がお手元に届いたときに、はじめに目を通されるのはどのページでしょうか。私事ですが、入会してからの十数年間は不真面目な読者で殆ど目を通していませんでした。そんなある日、診療の合間に偶然覗いた編集後記に惹き付けられて本誌の真面目な読者となりました。それ以来、はじめに「編集後記」に目を通してから「随筆」を楽しみ、上位申告者に贈呈される図書券に味を占めてからは「生涯教育コーナー」とプライマリ・ケアコーナーで知識を補ってきました。そして、各種報告や座談会などは大切な情報源となってきました。また、毎月の会報誌を手にする時は、会費の引落としと並んで本会の会員であることを実感する貴重な時でもありました。

● さて、今月号は8月にふさわしい写真が表紙を飾りました。報告は九医連関連、県との連絡会議など重要なものばかりです。シミュレーションセンターの話題からは臨床研修のメッカ沖縄の姿が見えてきます。そして、成功裡に終わった第114回沖縄県医学会総会報告と続きます。特別講演をされた石飛先生は、全科にわたる学術集会を年に2回も開催していることに驚かれたそうです。さらに、東日本大震災医療班支援では大槌町への寄付金贈呈が報告されています。多くの方々がその後のことを気にされていたのではないのでしょうか。是非、大槌町を訪れて下さい。三陸の海の幸なら「さんずる家」もおすすめです。

懇談会と生涯教育ではどちらも「臓器移植」を取り上げています。国内初の6歳未満の脳死判定による臓器移植が実施されたのは記憶に新しいことと思います。移植医療は医療のみでなく社会的にも関心の高いテーマです。プラ

イマリ・ケアコーナーは「五十肩と腱板断裂」です。日常の診療で肩の痛みを訴えられる方は珍しくなく、ときに自ら発症することもあるだけに見逃せません。インタビューコーナーは今年度から沖縄県福祉保健部長に就任された崎山八郎先生にお話しをお伺いしています。新沖縄復興計画が始まりますが、臨床研修後は行政一筋に進んでこられた先生の手腕に期待したいと思います。

さて、暑い日々が続いていますが、ときには青々と茂る木々の木陰に入って涼んでみてはいかがでしょうか。8月号と言えば緑陰随筆です。昭和52年から始まり、本誌の夏の顔として診療の合間に涼を運び続けて35年目になるそうです。今年も読み始めると目が離せなくなり、横に積まれたカルテが恨めしく思えてきます。

● 日本国中が緑陰に入ればエアコンも不要になり、大飯原発再稼働も必要なかったのではと考えるのは夏の夜の夢でしょうか。省エネといえは環境省は地球温暖化対策や電力不足対策として、照明の明かりをLED電球へ切り替えさせるために白熱球の製造、販売の自粛を業界に要請しました。そして、大手メーカーは年内に生産を終了するそうです。これに先駆けて、すでに医師会館の照明がLED化されているのにお気づきでしょうか。事務局の天井を縦走するLEDの明かりは壮観です。会館にお立ち寄りの際にはクールな輝きを是非ご覧下さい。一方、熱い攻防が繰り広げられた社会保障・税一体改革関連法案では3党修正協議によって後期高齢者医療制度の廃止は棚上げになりました。この機会に好期高齢者医療制度にしてはいかがでしょうか。

今月号も充実した内容となっています。そして、来月号には平成23年度の「生涯教育ハガキ申請上位申告者」が発表予定です。次号も目が離せません。

広報委員 出口 宝